

保護者アンケート集計結果

回収率 16世帯内 14世帯 (88%)
A→とても思う B→そう思う C→そう思わない D→全く思わない

1	園では、明るく元気で友達と仲良く遊び、お話をたくさんしてくれる子どもを育てていきたいと思っています。そのような保育が行われていると感じますか。	A 13 93%	B 1 7%	C	D
2	お子さんは楽しく幼稚園に通えていますか。	A 13 93%	B 1 7%	C	D
3	お子さんは基本的な生活習慣が 育ってきていると感じますか。	A 10 71%	B 4 29%	C	D
4	お子さんは友達との関わりを楽しんでいると感じますか。	A 12 86%	B 2 14%	C	D
5	幼稚園は、いろいろな行事をお子さんが楽しんで参加していると感じますか。	A 12 86%	B 2 14%	C	D
6	幼稚園は、安心して話しをしたり、相談したりできるような場になっていると思いますか。	A 11 79%	B 3 21%	C	D
7	幼稚園でのお子さんの様子は、家庭に伝わっていますか。	A 9 64%	B 5 36%	C	D
8	幼稚園は、健康や安全確保に努めていると思いますか。	A 13 93%	B 1 7%	C	D
9	園だよりやクラスだより等で、お子さんの様子や行事の内容が分かりますか。	A 12 86%	B 2 14%	C	D
10	幼稚園は、小学校や保育所との 交流の工夫をしていると思いますか。	A 11 79%	B 3 21%	C	D

<アンケート結果について>

おおむね園での取り組みが理解され、評価されていると受け止めている。来年度に保育所と統合して認定こども園になるため、計画的に交流保育を行い、スムーズに移行できるよう努めていきたい。また、園での様子をより分かりやすく伝えられるよう工夫していきたいと思う。

【自由記述覧】

<よかったと思われる行事・出来事>

- ・入園時は、子どもがおしゃべりするかどうか不安だったけど、すぐに園に慣れてくれました。
- ・毎日幼稚園に行くのを楽しんでいます。
- ・家でよくお友達の話をしてくれます。
- ・先生方のおかげで幼稚園が大好きな我が子です。のびのびと楽しく活動させていただいて、ありがとうございます。
- ・今年度からりんご組（預かり保育）の時間を長くしていただいたり、長期休暇中も実施していただいて助かっています。子どもも楽しいようで、ありがたいです。
- ・お友達だけでなく、先生との距離もすごく近くて、何でも気軽に話ができます。
- ・小人数で役割を与えていただく機会が多いからか、以前と比べて積極的になったように思います。
- ・新年度からなかむら保育所と一緒にになるので、いろいろと交流があっという間だと思います。

<返答>

- ・子どもたちが楽しんで園生活を過ごしていることが伺えた。
- ・預かり保育の拡充は、幼児にも保護者にも好評だったようだ。保育ニーズを把握して取り組むことができたと思う。

<気になる事>

- ・送迎時の園庭への車の出入りは、前進のみで行った方が良いと思います。
- ・こども園になってからは、これまでの園の良さに加え、同年齢のお友達が増え、切磋琢磨する機会も増えるのかと楽しみにしています。引き続きご指導の程、よろしくお願い致します。
- ・幼稚園がなくなってしまうのは淋しいですが、最後まで「今日、楽しかった」と帰ってくるのを楽しみたいです。
- ・あと残り少ない幼稚園生活ですが、一日一日を大切に、笑顔で卒園出来るように見守っていただければと思います。

<返答>

- ・なかむら保育所の工事に伴い、やむなく園庭ドライブスルーを実施した経緯がある。混み合わないように時間をずらしてのお迎えだったため、前進のみでの駐車はむずかしかった。今後、行事等で一斉に出入りする機会があれば、前進での乗り入れも検討したい。
- ・来年度からのこども園での生活については、意見交換会（9月）や交流保育の成果もあり、不安よりも期待が高まってきていることをうれしく思う。
- ・残り少ない幼稚園生活を楽しく過ごしてほしいという保護者の願いを受け、子どもたちの思いに寄り添いながら保育活動を充実させていきたいと思っている。

令和5年度 北山崎幼稚園職員自己評価

【評価基準】 A：十分達成 B：ほぼ達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価
教育課程編成の重点	園の教育目標を生かし、教育課程や指導計画と関連させて実践につながるよう、具体的な週・日案などの計画を作成しているか。	B
	日々の保育記録を通して、幼児の育ちを読み取り、具体的な援助について反省・評価し、次の指導の計画に生かしているか。	B
	行事は、教育目標達成の視点に立った内容になっているか。	B
保育内容・指導の重点	幼児が園生活を楽しみ、主体的な活動を通じて充実感を味わえるようにしているか。	A
	幼児が健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身に付くよう保育に取り組んでいるか。	B
	幼児が安心して過ごせる環境を作り、友達関係が広がったり深まったりするような援助をしているか。	B
	身近な自然や環境に親しむ中で様々な事象に興味や関心をもてるよう工夫しているか。	B
	遊びや生活の中で物の性質や数量・文字への関心や感覚が豊かになるよう工夫しているか。	B
	言葉や表現を身に付けるとともに、伝え合う喜びを感じられるよう工夫しているか。	B
	相手の話を聴いたり、思いを受け入れたりする幼児を育てるよう工夫しているか。	B
	幼児一人一人の発達を理解し特性に応じた指導の工夫をしているか。	B
職員の研究・研修	自主的、協力的な研修を行い、研究・研修の成果が保育に生かされているか。	B
	教師間で、その日の出来事や幼児の様子などを話し合ったり、保育内容・技術などについて検討したりすることができるか。	B
特別支援・人権教育	特別な支援を必要とする幼児の理解向上や特性に合わせた計画を立てて保育をしているか。	A
	すべての園児が集団生活を通じて互いのよさを感じ取ることができるよう保育をしているか。	B
開かれた幼稚園	保育所・小学校との交流の機会を設け、保育活動に生かしているか。	A
	参観日や保育参加などの機会を計画的に設け、保護者や地域住民の理解と協力を得ているか。	B
	保護者の思いや願いに寄り添いながら、保育内容や幼児の様子を分かりやすく伝えたり子育ての相談に応じたりしているか。	B

運営・ 事務他	園務分掌は全職員が共通理解して組織的に機能し、遂行されているか。	B
	安全点検をし、幼児が安心安全に園生活を送れるよう配慮したり対応したりしているか。	A
	日々の保育活動における問題や悩みについて気軽に相談し合える職場の人間関係ができてい るか。	B
	公文書の保管や管理、諸費の徴収・会計報告が適正に行われ、情報開示に対処できるよう になっているか。	A

<評価の理由及び改善点>

- 一人一人の幼児の心身の発達状況を把握するために職員間で定期的に話し合いをもち、様々な場面において適切に対応できるよう心掛けている。
- 異動により半数以上が入替わったため、教職員が園生活に慣れるのに時間がかかった。また、通常の業務の他に閉園に向けた業務も加わったことで、園務分掌の遂行や行事等の運営に余裕をもって取り組むことができなかった。
- コロナが落ち着いてきたため、保育所との交流保育を計画的に実施することができた。来年度からは両園が統合された認定こども園になるので、交流の様子を写真等の掲示や送迎時のかかわりで保護者に伝えるよう工夫した。しかし、家庭へのアンケート結果を見ると、うまく伝わっていないこともあることが分かった。今後は、個々に声をかけていきながら、様々なツールで幼児の様子を伝えていきたいと思っている。

学校関係者評価委員会報告

評価委員より	幼稚園回答
<p>Q こども園になった時の教育方針は？ （幼稚園型？保育所型？幼保連携型？） 来年度、急に環境や教育方針が変わると、子どもたちが不安になるのではないか？</p> <p>◎ コロナ以前の行事を振り返りながら、PTAとして行事を進めた。先生方とも連携をとりながらできた。保護者の中でもこども園になることへの不安の声はあるが、残りの日々を楽しみたい。</p> <p>Q 子どもたちにとっての幼稚園と保育所の大きな違いは何か？</p> <p>◎ 以前は小学校に入学した時に幼稚園卒の子は規則正しく、保育所卒の子は自己アピールに長けているなどの違いを感じることもあったが、こども園で教育方針を合わせることで幼保の両方の良さが取り入れられて楽しみな面がある。</p> <p>◎ 今年度の幼保の交流でふれあう機会もあり、隣同士という立地で馴染みもある。子どもは順応性もあるのでこども園に期待している。</p>	<p>A 保育所型になるが、幼保ですり合わせをしながら準備している。来年度から就労予定の保護者が多く、家庭環境も変わる幼児もいるが、4月は勤務時間を検討している家庭もある。保育所と連携をとりながら申し送りなどをしていきたい。</p> <p>A 一番の違いは幼稚園は「教育」、保育所は「教育＋養護」の場であること。 保育所は園にいる時間が長く、お昼寝など生活の時間がある。担任以外の先生とも関わりながら生活しているので、いろいろな先生に自分の気持ちを言う機会が多い。幼稚園は常に担任がいるため担任との関係が密になり、そこから人間関係を広げていく。 こども園のメリットとして、保護者が仕事を辞めるなどの事情があっても、子どもが園を変わらなくてもよいので、同じ環境で生活できることが保障されている。</p> <p>◎ 幼稚園での生活は残り少ないが、子どもたちや保護者の不安を和らげ、こども園への期待が高まるよう丁寧にかかわっていききたいと思う。これまで幼稚園を支援してくださったすべての方々に対しても感謝している。</p>